

やまと文化の森だより 企画展のご案内

※新型コロナウイルス感染症の状況により、内容が変更になる場合があります。

好評開催中!! (最終日は 15:00 までの展示です)

7月の企画展示(7/1~7/30)

○「さをりひろば山都」作品展(7/1~7/30)

蘇陽地区さをり織り教室の皆さんの作品を展示します。

○上田幸洋写真展(7/4~7/30)

地元の写真家、上田幸洋さんの写真を展示します。

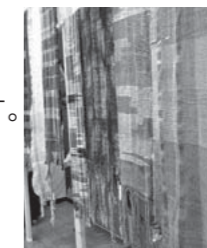
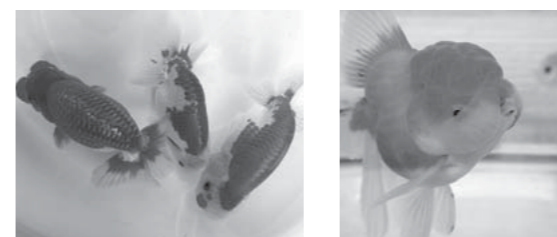
8月の展示(8/3~8/30)

○第2回 きんぎょとめだかのひろば(8/3~8/30)

きらびやかなメダカと町内在住の愛好家、

吉山敦さんが育てた様々な金魚が大集合!

期間中は金魚すくいとメダカすくいも開催します。



さをり織り作品

山都ウクレレシンガーズ
「夏唄ライブ」
7/16 14:00 ~
入場無料!

「金魚やメダカの上手な育て方」講座
8/13 13:30 ~

【講師】吉山 敦さん
金魚やメダカについて
知りたいことがある方は
ぜひお越しください。
参加無料



問合せ やまと文化の森 山都町下市 16 番地 ☎ 72-9400 開館時間 9:00 ~ 17:00 入館無料
休館日/毎週月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は次の平日)、年末年始等

山の都地域しごとセンター通信vol.65

移住者交流会をしました~蘇陽フットパス、菖蒲園を目指して~

6月11日に移住者交流会を行いました。今回はフットパス!蘇陽支所をスタートし、菅尾地区の菖蒲園を鑑賞したあとみなさんでお弁当を食べました。去年は雨天で歩けず悔しい思いをしましたが、今年は天気が持ちこたえてくれたおかげで大人から子どもまで楽しく歩くことができました。満開に咲いた菖蒲園は美しく、往復約6kmの道を歩いた疲れも忘れるほどのものでした。ご案内いただきました田崎ひとみさん(菅尾)をはじめ、菖蒲園の手入れをされている地域の方々に感謝いたします。しごとセンターのInstagramでも、交流会の様子など投稿していますので是非ご覧ください。



問合せ 空き家や移住・定住に関するお問い合わせは、お気軽にどうぞ。
山の都地域しごとセンター ☎ 72-9111 e-mail:yamato.shigotocenter@machi-y.jp

わたしたちの人權

220

誰もが人間として生きていくうえで
侵すことのできない当然の権利
これが『人權』です

人權作文の紹介(令和四年度)

今月は、清和小学校 六年(当時)
寺崎萌香さんの作文をご紹介します。

私のがんばり

壁面について学んだこと
私たちは、壁面の学習を人權セン
ターで行い、たくさんのことを学び
ました。

壁面をかけた子どもたちは、「解
放子ども会」に入っています。大人
の人たちが毎晩差別をなくす話し合
いをしていないか考えて、自分たちに
できることはないか考えてかいた絵
だと聞きました。「解放子ども会」
は「解放」という言葉に意味がある
そうです。ひどい差別に立ち上がる
大人の人たちが、子どもたちにも差
別に負けない強い心になってほしい
と願い、「解放子ども会」がつくら
れたと聞きました。中には、親の反
対で解放子ども会に入れなかった子
もいたそうです。解放子ども会の子
たちがかけた壁面で、心に残ってい
る人が三人います。

学校の三クラスあるなかで、解放子
ども会に入っていたのは、一人だけ
でした。当時は熊本城周辺で、五・
二三集会が行われていたそうです。
クラスの友達を一人ずつ説得してい
くのが、彼のがんばりでした。呼び
かけるだけなら簡単に思いました。
が、そうではありませんでした。友
達を説得できても、友達の親が「差
別なんかなか。」や「サッカーの試
合があるけん、いかなでもよか。」
などと反対したそうです。ですが、
彼は説得を続け、五・二三集会当日
は、大型バスが二台で行くほど、人
が集まったというのが、彼のがんば
りの結果だと思いました。

二人目は、リボン登校をがんばっ
た五年生の女の子です。リボン登校
とは、毎月二十三日に「差別をなく
そう」など書いたリボンをつけて登
校するという活動です。リボンをつ
けるだけなら、だれでもできそうだ
と思っていました。でも、強い心を
もった人しかできないことであり、
女の子はその心をもっていることを
知りました。リボン登校をするとき、
学校まで二十分、大通りを歩いてい
きます。すると知らない男の人から
「差別なんかなか。見苦しい。」など



言われたり、怖いおじさんからリボ
ンを取られたりした子もいたそう
です。私だったら、怖くてリボン登校
はできないと思います。けれど、女
の子は続けました。壁面の女の子は、
まっすぐ前を見て、固く口を閉じて
います。その表情からは「あきらめ
ない、負けない」という思いが伝わっ
てきます。その姿が、女の子のがん
ばりだと思いました。

三人目は、自分のお母さんにか
い、三年生の男の子です。私は、な
ぜ自分の絵じゃなくて、お母さん
にしたらどうかと思いました。その子
のお母さんは、山奥で生まれたそう
です。貧しく、お父さんは目が見え
ず、お母さんは体が不自由でした。
学校に行けず、字の読み書きができ
ないまま、義務教育を終了してしま
いました。大人になり、農家の仕事
のお手伝いで、牛のエサを切ってい
たとき、誤って自分の右手も一緒に
切断してしまいました。その後、差
別を受けていた地域の人と結婚し
て、まわりには字の読み書きができ
ない人がたくさんいることを知った
そうです。お母さんは識字学級や家
でも、左手で字の練習を始めました。
平仮名から練習している姿を見た男
の子は、ぼくもがんばろうと思うよ
うになりました。その男の子は、勉
強がきらいで外で遊んでばかりだっ
たそうです。男の子のがんばりは、
お母さんに負けないように勉強をす
ることだと思いました。

自分
の人權を守り
他人の人權を守る
責任ある行動を

他にも、差別にはいろいろな種類
があることを教えていただきました。
この子どもたちの活動を、中村
さんは「自分のたたかい」と言われ

現地学習をして、私は子どもたち
の行動力がすごいと思いました。で
も、子どもの行動をじゃまする大人
たちに腹が立ちました。子どもが
んばり、やる気、たかいたかいを「差別
なんかなか。」の一言で終わらせら
れるわけがないと思います。差別や
いじめで人が死んでしまうことだっ
てあるのに、「なんかな」という言い
方は差別を軽くみているように思え
ます。私がこれからはがんばってい
たいことは、自分の周りに気を配る
ことです。今の私には子ども会によ
うな勇気はありません。怖い大人に
立ち向かえる勇気はありません。勇
気をもてる自分になるために、まず
は、私の周りに困っている人はいな
いか、気を配れる人になりたいです。
私が大人になって、もしも、がんばっ
て差別とたたかっている子どもたち
がいたら、一緒に差別に立ち向かえ
る人になりたいです。差別を許さな
い人になるために、差別のおかしさ
に気付くこと、おかしいことはおか
しいと言える人になることが、大切
だと思います。毎日少しずつ目標を
立て、コツコツしていくことが、私
のがんばりです。



©2010 熊本県くまモン